

東京都で活動する相談支援専門員の態度と姿勢は…

- 1) 一人ひとりの「暮らし」を知るために、障害当事者の声を聴く
- 2) 本人の思いや将来に向けた願いを受け止める
- 3) 本人とともにあらゆる社会資源を活用し、創り出す
- 4) 障害者ケアマネジメントの理念を具現化する役割を持つ
- 5) 本人自身が力を発揮できるようエンパワメントを支援する
- 6) まだ出会っていない、支援を必要とする人々の存在を想像する
- 7) 地域で人々が交流し、育ち合う中心になる

相談支援と地域

東京という地域

自分の地域

相談支援専門員は、

- 1) 地域を出発点とし、地域の強みと課題を把握して、ニーズに向き合う
- 2) 利用者一人ひとりのニーズは地域のニーズと知っている
- 3) 地域（自立支援）協議会を地域課題解決のツールとして活用する



強みは？
課題は？

- 「本人中心」：本人の思いや願いに寄り添い、本人中心の支援を行う
- 「社会モデル」：障害を社会の状況・環境との関係の中で理解し、とらえる
- 「エンパワメント」：本人が持っている力を信じる
- 「権利擁護」：人としての存在と尊厳を守り、あらゆる人権を尊重する
- 「地域に根ざす」：フィールドとする東京都及び区市町村の地域性の把握と、地域福祉の向上に努め続ける

価値

[相談支援専門員の土台となるもの]

- ・東京都における障害福祉の歴史
- ・本人が暮らす地域とその社会資源の理解
- ・本人を理解するための、障害についての知識
- ・ケアマネジメントプロセスの基本的理解
- ・法制度や福祉サービスの知識

知識

- 1) 本人と信頼関係を構築できる
- 2) 基本的な面接技術に習熟している
- 3) ニーズを的確に捉えることができる
- 4) わかりやすい計画を立案できる
- 5) サービス提供者や行政等と協働する力がある（交渉・調整）
- 6) 個別支援で得た地域課題を協議会等のネットワークを通じて積極的に発信・共有できる
- 7) 地域で人々が交流し、育ち合う働きかけができる（ファシリテーション、スーパービジョン）

技術

[東京都の研修のしくみ ～相談支援専門員もエンパワメントのプロセスをたどる～]

初任者研修

目的：基本相談支援を基盤とした計画相談支援を実施できる知識と技術の獲得

獲得目標：本人主体の理解、ソーシャルワーカーとしての相談支援専門員の知識・価値・倫理・スキルの理解、実務の理解と一連の業務ができるスキル

現任研修

目的：相談支援のスキルアップ、チームアプローチ・コミュニティソーシャルワークのスキル獲得

獲得目標：地域資源の改善及び開発における相談スキル

演習指導者養成研修

目的：演習の実施に必要な指導者を新たに養成するとともに、優れた実務者との交流を通じて、東京都の中核的な人材であることの自覚を促す

主任相談支援専門員研修

目的：東京都及び地域の中核的役割を担う専門職の育成

獲得目標：地域の人材育成及び基幹相談支援センター等の運営管理における相談支援のスキル

専門コース別研修

目的：相談支援に必要な専門的な知識と技術の獲得

獲得目標：相談支援専門員として求められる最新の知識の獲得と専門的支援技術のスキルアップ

[国が考える地域や立場の違いによる]

相談支援専門員の役割

第3層：地域における相談支援体制の整備や社会資源の開発など

主な担い手⇒基幹相談支援センター、地域（自立支援）協議会

第2層：一般的な相談支援

主な担い手⇒市町村相談支援事業

第1層：基本相談支援を基盤とした計画相談支援

主な担い手⇒指定特定相談支援事業